

①背景

永野地区は神石町北東部に位置する人口約250人の地区。標高450～500mの石灰岩地帯のため、営農条件が厳しく、過疎・高齢化や農地・山林の荒廃が進んでいます。高齢化率は46%で、平成14年には小学校が廃校になりました。

②経緯

平成3年、集落機能の低下に危機感を抱いた地元有志が地域の活性化と集落機能の維持を目的に、まちおこしグループ「永野を考える会」を結成しました。

永野地区内にある断崖絶壁の渓谷「下帝釈峡」にあると文献で伝えられてきた鍾乳洞。この『幻の鍾乳洞』の発掘調査から始まった会の活動は、その後、渓谷コンサート、フォトコンテスト、手作り山荘の建設など、地域資源を活用した都市との交流事業へと発展していきました。廃校になった小学校を交流と地域支援の拠点施設「ふれあいセンターながの村」として位置付け、平成12年には「村長」を全国公募して、町外から経験豊かな人材を招き、「永野村運営委員会」を設立し、取組みは一層の発展をみました。

村長は1年6ヶ月の在任後、退任、平成15年10月からは地域住民による主体的な活動を展開しています。

③主な活動

・グリーンツーリズム構想の策定

国定公園帝釈峡を抱えた永野地区を中心に様々な地域の自然・生活・文化を大切な資源として位置付け、地域の活性化、都市と農村との交流を図り、コミュニティ形成や地域経済の活性化を促進していくことを基本コンセプトとして、住民により策定されました。

・ふれあいセンターながの村の管理・運営

廃校になった小学校を再生した宿泊研修施設。校舎の趣を生かした造りは、素朴でどこか懐かしい雰囲気があり好評です。県内各地の家族連れなどに利用されています。運営は、全て運営委員会が担当。地元の高齢者手づくりの手芸品も販売。地域の活動拠点としても利用しています。

・幻の鍾乳洞探検

平成4年に県が調査した「史跡名勝天然記念物調査報告書」に記されている幻の鍾乳洞を調査。下帝釈に眠る貴重な観光資源を掘り起こし、少しでも多くの人を永野に呼びよせ、この鍾乳洞を利用し、イベントを展開しています。

はなづら

・花面公園整備

下帝釈有効利用を目的にした整備計画を町に提案。花木の植樹、観光案内板の設置などを実現。ここを利用した「清流コンサート」も開催しています。整備により、ロッククライミングのメッカとしても知られるようになりました。

・神石・永野ウオーキングマップ作成

永野地区の知られざる名所を記載したマップを住民が作成。四季折々に変化する風景が目に見え、様々な、地元の住民だからこそ知っている情報が満載です。

④活動経費

町からは永野村へ施設管理および業務委託料を支出。その他は会費、施設利用料、特産品の売上など自主採算で運営。利潤を追求するのではなく、地域の活性化と支援、生きがいつくりの場となる運営を目指しています。

⑤他地域への広がり

神石町では、永野地区を含む9つの旧小学校区を基本とした地域づくりを展開しており、現在8つの地域でコミュニティが組織化され、「地域づくり研究班」を中心として特色ある取組みを行っています。町は「地域自治づくり補助金」により活動の支援を行っています。



小学校を再生し宿泊もできる「ふれあいセンターながの村」

